

<p>経済・経営</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ 災害・危機における小規模事業者の事業継続</p>
<p>key word</p>	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業継続 (Business Continuity) ■ 自然災害 ■ パンデミック ■ 小規模事業者 ■ 社会規範 	<p>私はこれまで、主として自然災害に関する研究や実務に携わってきました。そのなかで、平常時とは異なる「不安定な社会的状況」においてどのように行動すればよいか、また、事前にどのような準備をしておけばよいかということに現在関心を持っています。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の流行下においても、世間の人々の空気感や行政の対応等が時々刻々と変化する「不安定な社会的状況」が出現しました。このような危機に直面した際に、どのように事業継続を図っていけばよいのでしょうか？また、事前にどのような対策をしておけば、災害や危機を乗り越えることができるのでしょうか？事前に作成しておいた計画は有効なのでしょうか？</p>
	<p>このような問いにもとづき、共同研究者と共に、27の小規模事業者にご協力をいただきながら、事業継続に関するインタビュー調査を進めてきました。これを通じて、「不安定な社会的状況」における事業継続にとって重要な要素が、現在少しずつ見えてくる状況です。</p> <p>今後、事例を拡充するとともに、地震や風水害などの自然災害における事業継続も対象としながら、不安定な社会的状況を生き抜いていくための知見を蓄積していきたいと考えています。</p>
<p>松原 悠 Yu Matsubara</p>	
<p>データサイエンス・AIイノベーション 研究推進センター助教</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の流行下において 小規模事業者らの経営判断に影響を及ぼした要素の概念図 (時期によって、「世間」「行政」「事業者(事業者自身)」の持つ影響力のバランスが変化した) [図の出典: 左下に記した参考文献]</p>
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●専門分野: 災害科学 ●略歴 ・2011年3月 京都大学大学院工学研究科 都市社会学専攻終了 ・2011年4月~2016年12月 大阪ガス株式会社 ・その後、京都大学防災研究所 研究員等を経て ・2022年3月 京都大学大学院情報学研究科 博士後期課程修了 博士(情報学) ・2022年11月 滋賀大学データサイエンス AIイノベーション研究推進センター 助教 <p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●所属学会(災害関連のもののみ記載) ・日本自然災害学会 ・日本災害情報学会 ・日本災害復興学会 ・地区防災計画学会 ・Integrated Disaster Risk Management (IDRiM) Society <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本テーマに関連する論文 	 <p>小規模事業者らとともに開催した、パネルディスカッションの様子</p> <p>テーマ:「パンデミックを生き抜く知恵と制度の課題」</p> <p>[図の出典: 大門大朗・松原悠・Cox Zachary・鈴木駿介(2022) 日米の小規模事業者は COVID-19 パンデミックをどのように乗り越えたのか? 第53回総合防災セミナーを振り返る, 災害と共生, 6(1), 55-58. https://doi.org/10.18910/89295]</p>
<p>●本テーマに関連する論文 松原悠・大門大朗(2022) 新型コロナウイルス感染症の流行下における社会規範の変化が小規模事業者に与えた影響: 27の小規模事業者へのインタビュー調査に基づく分析, 災害と共生, 6(1), 1-14. https://doi.org/10.18910/89290 等</p>	<p>企業・自治体へのメッセージ</p> <p>本テーマは、事業者の方々と共に検討を進めていくことが重要だと考えております。まだまだ研究を始めただけではあるのですが、もし災害・危機における事業継続についてご関心をお持ちの事業者や自治体・支援機関等の方がいらっしゃいましたら、ぜひ気軽にコンタクトをいただけますと幸いです。</p>